

1	名古屋	白金小学校	キタガワ フミトキ 名前 北川 史悦
分科会番号	12	分科会名	自治的諸活動と生活指導(小学校)

研究題目

なりたい自分に向かって、行動できる児童の育成

研究要項

1 研究のねらい

私は、「なりたい自分に向かって、行動できる児童」を育てたい。私の考える「なりたい自分に向かって、行動できる児童」とは、「こうなりたい」「こんなことができるようになりたい」といった自分が目指したい目標の姿をつかんだり、自分に合った目標への道筋をもったりして行動することができる児童である。なりたい自分に向かって自ら行動することは、児童が社会に出たときに、自らの生き方を考え、未来を切り開いていく素地になると考える。

本学級の児童（6年生30人）は、学級目標「やさしい・さいこう・いじめなし」を考えたときの話し合いから、小学校生活最後の1年間を自分たちの成長につなげたいという思いが感じられた。しかし、普段の生活を見ていると、自己の成長につながる主体的な行動はほとんど見られなかった。

そこで、学級アンケートで意識調査を行った。その結果、26人の児童が目標となる「なりたい自分」があると回答したが、「なりたい自分」に向かって行動できている児童は、26人中15人であった。26人中11人の児童は、「なりたい自分」という目標と行動と結びついていない現状があった。この実態は、児童がもつ目標の姿や目標への筋道について考える活動が不十分であったことが原因だと考える。

そこで、本研究では、なりたい自分を目指し、「見通しをもつ」「行動する」「振り返る」というサイクルで活動を進めていく。その中でも「見通しをもつ」場面に焦点を当て、①目指したい姿をつかむための「目標の探究」と②目標への道筋をもつための「道筋の探究」の2点に重点を置くことで、「なりたい自分」という目標と具体的な行動を結びつけられるようにし、主題の児童の育成を目指す。

2 研究の手立て

本研究では、「見通しをもつ」場面でそれぞれが設定した「マイチャレンジ」（なりたい自分を実現するため、児童一人一人が設定する行動目標）を基に、「行動する」「振り返る」活動を行っていく。マイチャレンジを設定する際、以下の二つの手立てを取り入れる。

(1) 自分が目指したい目標の姿をつかめるようにするための「目標の探究」

目標となる「なりたい自分」の姿を具体化したり、整理したりすることで、自分が目指したい目標の姿をつかめるようにする。

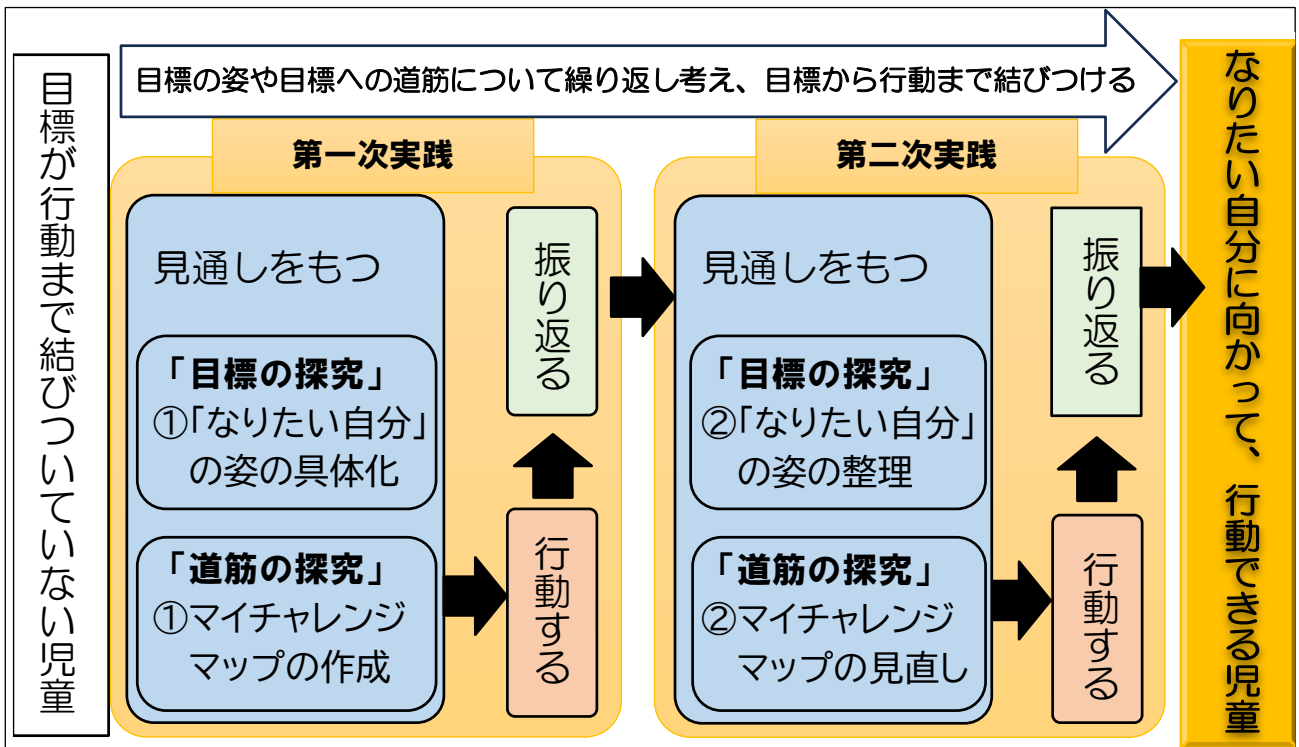
(2) 自分に合った目標への道筋をもてるようにするための「道筋の探究」

なりたい自分への道筋となるマイチャレンジマップを作成したり、更新したりすることで、自分に合った目標への道筋をもてるようにする。



【学級アンケートの結果】

N=30



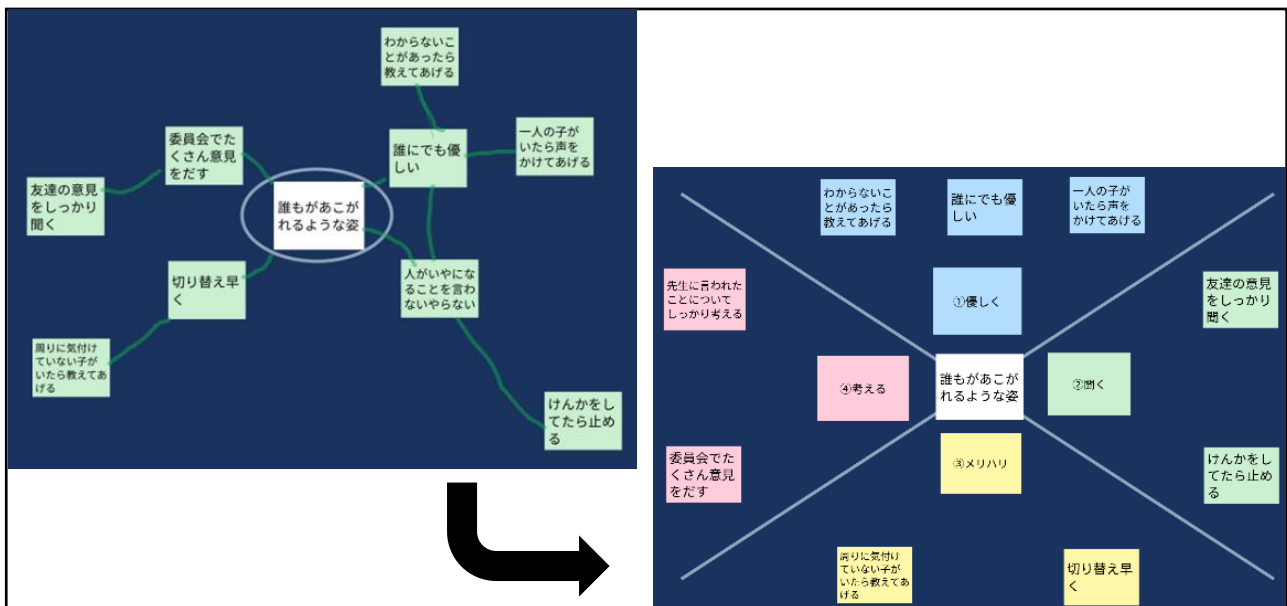
【実践の構造図】

3 第一次実践の様子

(1) 目標の探究・・・「なりたい自分」の姿の具体化

意識調査では、多くの児童が「なりたい自分」があると答えた。しかし、その目標の姿について詳しく聞くと、「みんなから頼られる6年生」「しっかりした6年生」というような漠然とした姿までしかイメージできていないようだった。目標を行動まで結び付けるためには、児童一人一人が自分の目標について探究し、その姿をつかむ必要があると考えた。そこで、「なりたい自分」の姿を具体化することで、自分が目指したい目標の姿をつかめるようにした。

まず、「なりたい自分」についてのイメージマップを作り、自分の目標とする姿につながる行動を考え、カードに書き出した。次に、「優しく」「聞く」「メリハリ」「考える」など、自分の書き出した内容に合わせたキーワードを考え、書き出したカードを分類した。



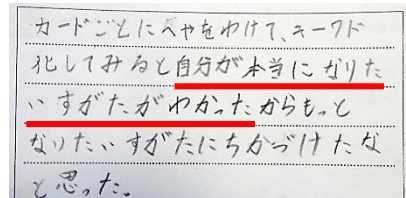
【イメージマップで姿を具体化する】

目標の姿からイメージマップをどんどん広げていく児童がいる一方で、考えが広がらない児童の姿も見られた。そこで、友達とお互いのイメージマップについて、アドバイスしたり、認め合ったりする時間を設定することで、児童が考えを広げられるようにした。整理したイメージマップを友達と見比べていた児童からは「このカードは、ここにも当てはまりそうだね」「このカードは思いつかなかった。自分も取り入れていい？」と友達と協働しながら、目標の姿について探究する様子が見られた。



【友達と協働し、考えを広げる】

活動後の振り返りには、「優しいにも、色々な優しいがある」「自分が本当になりたい姿が分かった」という記述が見られた。児童は「になりたい自分」の姿を行動として具体化したことで、「になりたい自分」について理解を深め、目指したい目標の姿がつかめたようだった。

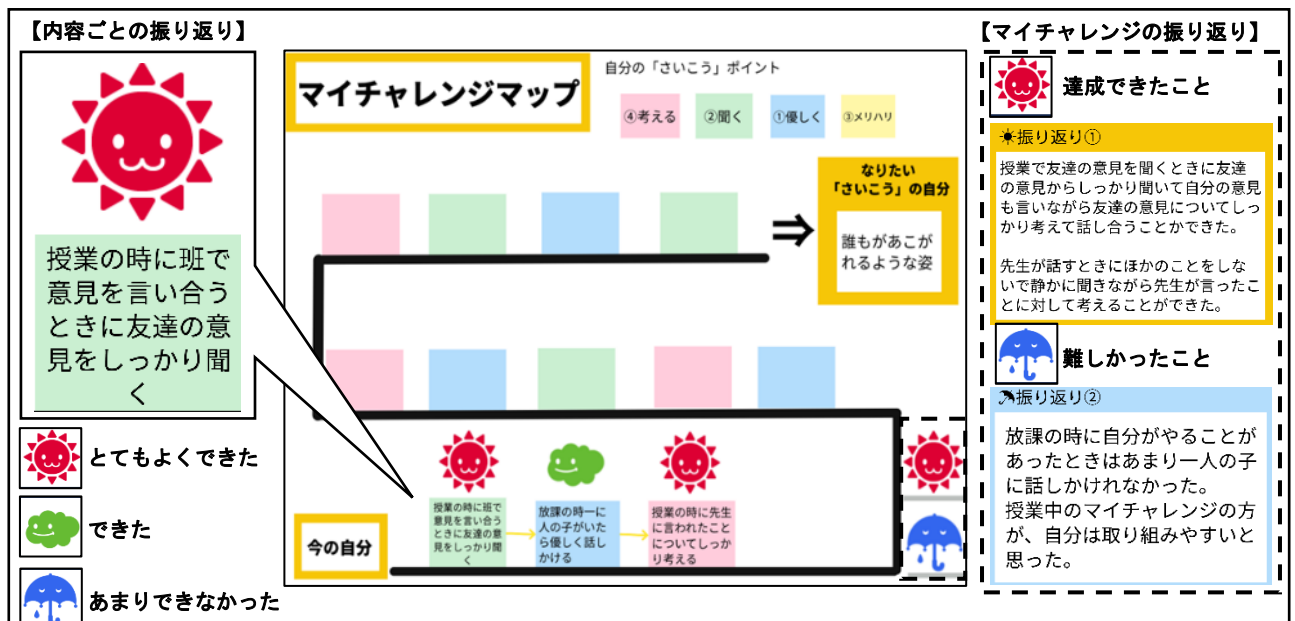


【目指したい姿が掴めた児童の感想】

(2) 道筋の探究・・・「マイチャレンジマップ」の作成

具体化した目標の姿を実際の行動まで結び付けるためには、目標の探究だけでなく、目標へ到達するための自分なりの道筋を探究することも必要だと考えた。そこで、なりたい自分への行動計画「マイチャレンジマップ」を作成することで、自分に合った目標への道筋をもてるようにした。

目標の探究で具体化した行動を基に、自分がチャレンジしたい内容を考え、マップ上に順番に整理していき、児童一人一人のマイチャレンジマップを作成した。その後、自分の作成したマイチャレンジマップに整理した内容の達成を目指して行動する活動を1週間行い、最終日に自分の達成具合について振り返った。マップに整理した内容ごとに達成具合をマークで振り返ったほか、マイチャレンジの活動全体についての振り返りも行った。振り返りを全体で共有すると、「自分が今一番やりたいこと、やりやすいことが意識できて、やる時が見つけやすくなった」というマイチャレンジマップを作成したことで行動に結び付いたことが分かる意見も聞かれた。また、「一度にやろうとするとできないから、次は違う場面のものを選びたい」と、自分に合った目標への道筋にするための気付きを得た児童も見られた。



【マイチャレンジマップの振り返り】

(3) 第一次実践 成果○と課題●

① 自分が目指したい目標の姿をつかめるようにするための「目標の探究」

- なりたい自分についてのイメージマップを作り、その行動を具体化したことで、目指したい目標の姿をつかむことができた。
- 具体化した行動について整理する活動が足りず、目指したい目標の姿と係わりの薄い内容をマイチャレンジに設定してしまう児童の姿が見られた。

② 自分に合った目標への道筋をもてるようにするための「道筋の探究」

- なりたい自分から具体化した行動を基に、マイチャレンジマップを作成したことで、自分なりの目標への道筋をもつことができた。
- マイチャレンジマップの内容を、自分に合ったものに改善する活動まではできなかった。

③ 第二次実践に向けて

- ア 「目標の探究」の場面で、なりたい自分の姿を具体化した行動を整理することで、より自分が目指したい目標の姿に合った行動をつかめるようにする。
- イ 「道筋の探究」の場面で、ここまでの活動を通して自分が気付いたことを取り入れて、マイチャレンジマップを更新することで、より自分に合った目標への道筋をもてるようにする。

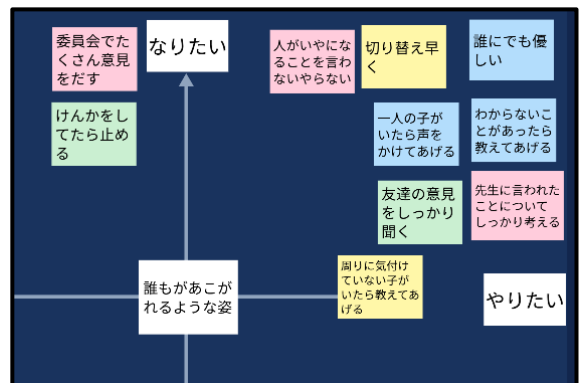
4 第二次実践の様子

(1) 目標の探究・・・「なりたい自分」の姿の整理

第一次実践で具体化した行動について、なりたい自分の姿にどれだけ近いかを表す「なりたい」軸（縦軸）、どれだけ挑戦したいと思っているかを表す「やりたい」軸（横軸）で整理する活動を行った。第一次実践において、友達と協働することで考えを広げる姿が見られたことから、第二次実践では、自由に友達と意見を交換しながら進められるように活動を設計し、児童それぞれが必要に応じて、友達と協働して活動に取り組めるようにした。

活動では、「これは、なりたい自分に近いから上の方で、やりたい度はこのくらいかな」と一つ一つの行動について、目標とする姿と自分の思いを意識しながら整理する姿や、「どっちのカードが『なりたい』姿に近いと思う？」「〇〇さんは、人間関係の力を生かしていたから、こっちの方がなりたい姿に近いと思うな」と他者から新しい考えを取り入れて、自分の考えをより深めようとする姿が見られた。

活動後の振り返りでは、「自分の『やりたい』『なりたい』が分かって、自分の中での優先順位がついた。次のマイチャレンジに生かしたい」と、目標の姿に合った行動をつかむことができ、自分が目指したい目標の姿について考えを深められたことが分かる記述も見られた。



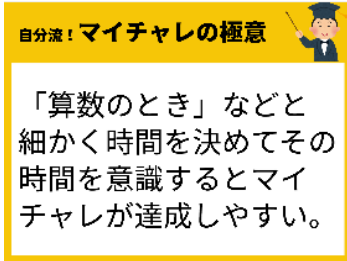
【座標軸で行動を整理する】

自分のやりたいこと、「なりたい」が分かって自分の中での優先順位がついて、その優先順位を元に次のマイチャレンジに生かしたい。

【目標の姿に合った行動をつかめた児童の感想】

(2) 道筋の探究・・・「マイチャレンジマップ」の更新

マイチャレンジマップをより自分に合ったものにするため、①前回のマイチャレンジの成果や課題 ②目標の探究の活動で気付いたことに着目し、マップの内容を更新する活動を行った。マップを更新する際のヒントとして、前回のマイチャレンジでのそれぞれの気づきを「マイチャレの極意」としてロイロノートで共有し、前回のマイチャレンジの課題に対して、児童が自分なりの解決方法を見つけることができるようにした。



【共有した極意】



【極意を紹介し合う】



【全員の極意をロイロノートで共有】

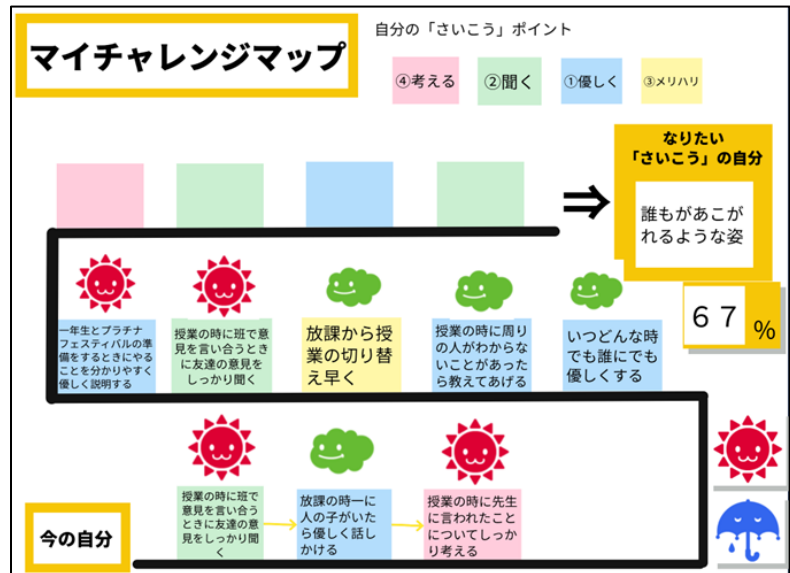
マイチャレンジマップの続きを考え、更新する活動を行うと、「これは優先順位が高いから最初にしよう」「一番やりたいものはすぐにできそうだから、ここに入れよう」と目標の探究の活動での気づきを生かしている姿が多く見られた。その後、「前回の成果と課題を生かせられないかな」と児童に投げ掛けると「前にできなかったものに再挑戦するのはどうかな」「極意を使って、今度は時間と回数を決めてみよう」と、前回の活動での気づきを生かして、思い思いにマイチャレンジマップを自分に合った内容に更新する姿が見られた。



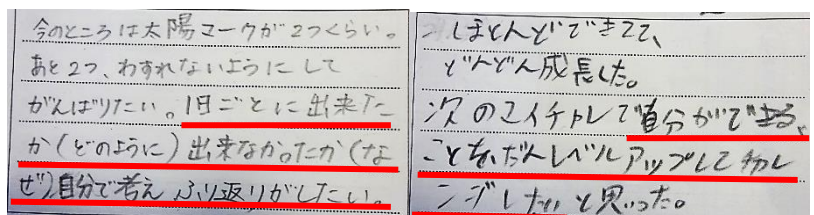
【気づきを生かしてマップを更新】

その後、更新したマイチャレンジマップを基に、それぞれの児童が行動をしていった。この期間中は、児童それぞれの思いに合わせてマイチャレンジの内容を付け加えたり、順番を入れ替えたりする時間も設定することで、児童が必要に応じて取り組み具合を調整しながら、マイチャレンジの達成を目指せるようにした。

活動後の振り返りでは、「1日ごとにできたかを自分で振り返りがしたい」「次は、1段レベルアップしてチャレンジしたい」という記述も見られ、マイチャレンジマップをより自分に合うものにしていこうとする姿勢が感じられた。



【更新したマイチャレンジマップ】



【マップより自分に合うものにしていこうとする児童の感想】

(3) 第二次実践 成果○と課題●

① 自分が目指したい目標の姿をつかめるようにするための「目標の探究」

- なりたい自分の姿を具体化した行動を整理することで、より自分が目指したい目標の姿に合った行動をつかむことができた。
- 具体化した行動について整理した際、「なりたい」かつ「やりたい」に当てはまる内容に着目したため、「なりたい」には当てはまっているものの、自分が苦手だと感じている内容は、今回のマイチャレンジには生かされていなかった。

② 自分に合った目標への道筋をもてるようにするための「道筋の探究」

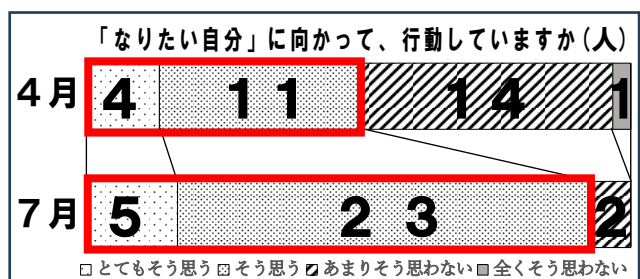
- ここまでの活動を通して自分が気付いたことを取り入れて、マイチャレンジマップを更新することで、より自分に合った目標への道筋をもつことができた。
- マイチャレンジマップの内容を自分に合ったものに更新したが、取り組む期間や振り返りのペースは統一して行った。「行動する」「振り返る」の場面で、より児童一人一人が自分なりのペースで行えるような工夫が不足していた。

③ 次の実践に向けて

- ア 「目標の探究」の場面で、なりたい自分の姿を具体化し、整理した行動のうち、「なりたい」かつ「やりたくない」内容に着目し、友達と互いに内容を価値付け合ったり、達成につながるような取り組み方を考えたりすることで、より自分が目指したい目標の姿に合った行動をつかめるようにする。
- イ 「道筋の探究」の場面で、今後の活動で取り組みたいマイチャレンジと合わせて、「いつ」「どのように」振り返りを行っていくかを児童それぞれで設定し、マイチャレンジマップをさら更新することで、より自分に合った目標への道筋をもてるようにする。

5 実践のまとめ（成果と課題）

1学期末、その後もなりたい自分に向け、マイチャレンジ活動を行う児童に、意識調査を行った。「なりたい自分」に向けて行動していると答えた児童の数が増えていることから、活動を通して、多くの児童が「なりたい自分」という目標と具体的な行動を結び付けられるようになったことが分かった。4月の意識調査では目標と行動が結び付いていなかった11人の児童も、質問に「とてもそう思う」「そう思う」と回答しており、実践の手応えを感じることができた。



【学級アンケートの結果】 N=30

4月の意識調査では目標と行動が結び付いていなかった11人の児童も、質問に「とてもそう思う」「そう思う」と回答しており、実践の手応えを感じることができた。

一方で、「目標に向けて、新しいことや難しいことにチャレンジができていますか」という項目に対する肯定的な回答は6割程度にとどまっていた。今後は、児童が自分の思いに応じて、新しいことや自分にとって難しい内容のマイチャレンジにも取り組んでいけるような手立てを考えていきたい。

6 今後に向けて

実践中、目標の姿や目標への道筋を探究し、自分なり考えを取り入れながら行動していく児童の姿が多く見られた。この姿から、本学級の児童が「なりたい自分に向かって、行動できる児童」として成長していることを実感した。この姿は、私が大切にしたい「子どもの自分なりのチャレンジ」であり、同時に本校の学校教育目標である「自ら考え、行動する子ども」の姿でもあると考える。今後も、「なりたい自分に向かって、行動できる児童」の育成を通して、このような姿を増やし、子ども中心の学びの実現を目指したい。